

お知らせ

【返信ハガキについて】

11月20日に開催される定期総会並びに開校30周年記念祝賀会の出欠確認のため、返信ハガキを同封致しました。『出席』『欠席』のどちらかに○を付け、必要事項を記入の上、10月15日までに投函頂きますようお願い致します。個人情報保護シールを同封致しましたのでご利用下さい。切手は必要ありません。

▽本人情報欄

返信ハガキは、皆様の現況届けを兼ねております。総会・祝賀会に欠席される方や現住所などに変更がない場合でも、全てご記入の上、返信をお願い致します。特に、封筒の宛名書きに記載されている住所と現住所が異なる場合（転送により届いた場合や市町村合併などによる町名・地番変更がある場合など）は、次回発送時に、宛先不明で事務局に返送される可能性が高くなります。同窓会からのお知らせを確実に届けるためにも、ご協力をお願い致します。

▽実家連絡先欄

転居を機に不明者となるケースが増えております。本人に連絡が取れない場合でも、実家に連絡が可能であれば不明者とならずに済むことから、返信

ハガキに実家連絡先欄を設けております。主旨をご理解頂き、差し支えなければご記入をお願い致します。なお、現在学生の方（卒業後の転居が予想されるため）や転居の予定がある方、同窓会からの郵便物の発送先に実家を希望される方は必須記入項目となります。

▽発送先確認欄

海外在住や転居が多い方など本人への発送が難しい場合もあることから、同窓会からの郵便物（会報など）の発送先確認欄を設けております。希望する宛先（『本人』『実家』のどちらか）に○を付けて下さい。印がない場合は、本人宛に発送致します。

なお、封筒の宛名の個人コードの横に（実）と表記されている場合は、現在、発送先を実家にされている方です。引き続き実家への発送をご希望される方は、忘れずに『実家』に○を付けて下さい（印がない場合は、本人宛に変更されます）。

▽不明者情報欄

同封されている不明者リストは、転居先不明により会報などが発送出来ない方々です。リストの中でご存知の方がいらつしやいましたら、返信ハガキの不明者欄にご記入をお願い致します。不明者欄に書ききれない場合は、宛先面の通信欄をご利用下さい。

【「実家の皆様へ」】

この会報がご実家に届き、本人が同居されていない場合は、本人の連絡先が不明となっております。恐れ入りますが、本人に転送して頂きますようお願い申し上げます。ただし、前述のとおり、封筒の宛名の個人コードの横に（実）と表記されている場合は、本人の意向でご実家に発送しております。

【メールによる変更届】

今後、転居された場合など、メールによる変更届も受け付けております。メールの件名を「連絡先変更」とし、卒業期、名前（旧姓）、住所、電話番号を明記の上、同窓会事務局へお送り下さい（メールアドレスは1ページ目に記載）。内容を確認後、事務局から変更受付完了メールを送信致しますので、携帯電話などから送信されている場合、受信拒否とならないよう設定の変更をお願い致します。

今回ご案内している出欠確認は、同封の返信ハガキをお願い致します。

【個人情報取り扱いについて】

皆様から寄せられた個人情報、同窓会事務局からの連絡や郵便物の発送以外の目的では利用致しません。情報流出にも細心の注意を払って管理にあつております。学校や同窓会事務局

編集後記

の関係者を名乗り、個人情報を聞き出すとする不審な電話などにはくれぐれもご注意ください。万が一、同窓会事務局で電話調査などが必要な場合は、予め会報などでお知らせ致します。

札幌日大高校が開校30周年を迎えました。今最初の試みとして、全期による同窓会（記念祝賀会）を開くことが決まり、少しずつ準備が進められています。クラス会さえ無縁という方が大多数と思われる中で、実際どれくらいの同窓生が参加されるのか見当も付きません。まさに手探り状態での運営ではありますが、これを機に少しでも多くの同窓生が集い、同窓会の発展に繋がればと思います。

それにしても現在の学校生活は、色々な事にチャレンジできる機会に恵まれ、少々うらやましいですね。

“ん？”と首をひねった方は古い期の方かも。学校のホームページを覗くと、知らない世界がありますよ（笑）

編集委員

- 中村 美千代（1期生）
- 大淵 貴康（2期生）
- 寺岡 麗香（4期生）

札幌日大高校は開校三〇周年を迎えます

一九八七年（昭和六十二年）に開校した札幌日大高校は三〇年目を迎え、今年の春、真新しい制服に身を包んだ三〇期生が入学しました。本校の卒業生も九千人を超し、今後は同窓会の役割も増してくることでしよう。十一月には、全期の同窓生が集う「開校三〇周年記念祝賀会」も開催されます。そこで、記念祝賀会のご案内とともに、札幌日大高校の歩みや後輩たちの活躍などを紹介いたします。

— 札幌日大高校の歩み —

開校から現在に至るまでの沿革を簡単にまとめてみました。

昭和62年 4月12日

札幌日大高等学校開校式並びに

第一回入学式を挙

昭和62年 6月6日

校舎落成記念式典

昭和63年 3月

寄宿舎新築工

平成元年 4月

寄宿舎増築工

平成2年 3月8日

第一回卒業式

平成2年 4月1日

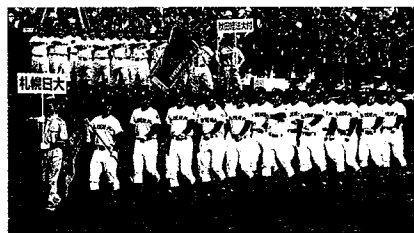
学校法人名を、札幌日大

平成2年 9月

総合グラウンド完成（野球場、サッカー場ほか）



開校当時の学校周辺



選抜高校野球大会初出場



札幌日大中学校が開校

平成9年 9月

オーストラリア3校、カナダ2校と

姉妹校提携

創立10周年記念式典並びに祝賀会を

実施

平成14年 3月

第74回選抜高校野球大会（甲子園）

初出場

平成15年 4月6日

札幌日大中学校開校式並びに第

一回入学式を挙

平成18年 2月

中高一貫校舎増築工

平成22年 10月30日

中高一貫校舎第二期増築工

完成記念祝賀会を開

平成23年 12月

総合グラウンド改修工

平成24年

4月から5年間、スーパ

スハイスクール（SSH）

平成27年

4月から5年間、スーパ

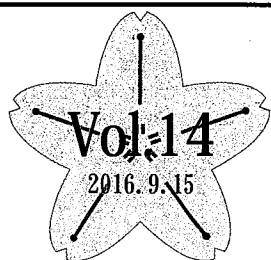
ルハイスクール（SGH）

に指定

そして、今年の11月20日、開校30周年記念祝賀会を開催します（詳細は次ページ参照）。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

札幌日大大学高等学校同窓会

桜 昂 会



〒061-1103 北広島市虹ヶ丘5丁目7番地1 TEL 011-375-2611
E-mail: oukoukai_snuh@sapporonichidai.ed.jp

開校三〇周年記念祝賀会

記念祝賀会並びに同時開催する定期総会のご案内です。また、札幌日本大学学園理事長、札幌日本大学中学校・高等学校校長、30周年記念祝賀会実行委員長よりご挨拶を頂戴いたしました。

学校法人札幌日本大学学園
理事長 浅利 徹
卒業生に感謝



本学園は昭和三十九年(一九六四年)胆振管内白老町において

日本大学付属高校として北海道日本大学高等学校を開校し二十三年間にわたり経営してきました。その後立地の事情もあり、日本大学の付属高校として北海道全域から生徒を集めるためには札幌圏への進出が不可欠と判断し、昭和六十二年この地に札幌日本大学高等学校を開校し待望の札幌圏進出が実現しました。それ以来、本年で三十年の節目を迎えることとなりました。

～開校30周年記念祝賀会・定期総会のご案内～

開校30周年を記念し、1期から27期まで全同窓生を対象にした祝賀会を開催いたします。30年を振り返るビデオ上映や同窓生によるステージイベント、抽選会(予定)などを楽しみながら旧交を温めませんか? 多くの同窓生の参加を心よりお待ちしております。なお、定期総会では、今年度の事業報告や次期役員候補の承認などを予定しております。

日時:平成28年11月20日(日)
午後1時～受付
午後2時～定期総会
午後3時～記念祝賀会
会場:札幌プリンスホテル 国際館パミール3階(札幌市中央区南2条西11丁目)
会費:おひとり様 5,000円

申し込み方法
同封の返信ハガキに必要事項を記入して10月15日(土)までに投函して下さい。また、同封の振込用紙で10月21日(金)までに会費の振り込みをお願い致します。(ゆうちょ銀行または郵便局の払込機能付きATMで利用可能)入金の確認をもって、申し込み完了とさせていただきます。

問い合わせ先
札幌日本大学高等学校 事務局 電話:011-375-2611 FAX:011-375-3305

※既に学校のホームページ(<http://www.sapporonichidai.ed.jp/high/>)で申し込まれた方は、返信ハガキの通信欄にその旨を記載して下さい。
※会報が届いていない方をご存知の場合は、上記HPからお申し込み頂くようお願い致します。
振込用紙が無い場合の振込先は、
銀行支店名 ゆうちょ銀行 西の里支店
口座記号 19050 口座番号 5124221 口座種類 普通
口座名 札幌日本大学高等学校30周年祝賀会事務局
になります(振込用紙を無くされた場合もこちらにお願い致します)。
※今回の記念祝賀会の実行委など、同窓会で一緒に活動して頂ける方を募集しております。興味のある方は、上記事務局(大淵)までお問い合わせ下さい。

【野球部】

▽全国高等学校野球選手権大会
▽北海道大会 準優勝
1回戦 札幌日大 3-1 駒大苫小牧
2回戦 札幌日大 16-6 札幌丘珠
準決勝 札幌日大 6-4 札幌第一
決勝 札幌日大 2-7 北海



【スキー部】

▽全国高等学校スキー大会(2月に開催)
男子スペシャルジャンプ 岩佐 勇研 3位
清水 建吾 13位

【放送局】

▽NHK杯全国高校放送コンテスト
▽北海道大会
アナウンス部門 藤谷 健太郎 8位
朗読部門 糸賀 舜 1位
テレビドキュメント部門 弥勒院 朱香 2位
ラジオドキュメント部門 創作ラジオドラマ部門 NHK総合賞 優秀賞
▽全国大会
アナウンス部門 藤谷 健太郎 準々決勝出場
朗読部門 弥勒院 朱香 優良賞
テレビドキュメント部門 糸賀 舜 入選
ラジオドキュメント部門 準々決勝出場

【吹奏楽部】

▽全日本吹奏楽コンクール
▽全国大会
高校A編成の部 金賞
(全国大会出場権獲得)
演奏会のお知らせ
9月25日午後2時から、サンピアザ(札幌市厚別区厚別中央2条5丁目)1階光の広場で、吹奏楽部によるコンサートが開かれます。5年連続で全国大会への出場を決めた迫力ある演奏を聴きに、お近くの方は足を運んでみませんか?
演奏は30分程度で、無料で楽しめます。



いかがでしたか? 他にもさまざまな大会で、多くの生徒たちが活躍をしています。もちろん、日々の学生生活や部活動だけではありません。今春の進学実績は、東京大学へ2名、医学部へ8名、難関国立大学10名、国公立大学61名、難関私立大学47名、そして日本大学に67名が合格しました。これからの活躍にも、大いに期待したいと思います。
※写真は昨年または今年の大会のようすです。

部活動の記録

部活動での活躍も目を見張るものがあります。今年度の高校総体を中心に掲載しました。テニス部、剣道部、柔道部、陸上部、男子バスケットボール部が全国大会(2016情熱疾走 中国総体)に出場。放送局や吹奏楽部も全国大会出場を果たしています。

【テニス部】

▽高体連(全道大会)
男子団体 準優勝
シングルス 本間 悠悟 ベスト8
横濱 圭亮 ベスト16
ダブルス 大友元貴・佐藤亮太 3位
山本裕大・横濱圭亮 3位
女子シングルス 五ノ井 祐佳 ベスト16
ダブルス 五ノ井祐佳・横井里恵花 準優勝

▽高体連(全国大会)

女子ダブルス 五ノ井祐佳・横井里恵花 出場

【剣道部】

▽高体連(全道大会)
男子団体 ベスト8
個人 成田 匡佑 ベスト8
女子団体 優勝
個人 牛木 麻理奈 準優勝
伊部 瑞葵 ベスト8
▽高体連(全国大会)
女子団体 予選リーグ出場

個人 牛木 麻理奈 ベスト16

▽その他
10月開催の「希望郷いわて国体」に、牛木麻理奈、濱田裕佳の両名が出場

【柔道部】

▽高体連(全道大会)
女子団体 ベスト8
個人63kg級 原口 茜 3位
70kg級 木内 菜摘 優勝
福士 明里 準優勝
▽高体連(全国大会)
女子個人70kg級 木内 菜摘 出場

【陸上部】

▽高体連(全道大会)
男子1500M 小松 勇太 8位
5000M 齋藤 晃太 3位
3000M障害 齋藤 晃太 3位
女子1500M 加藤 風紗 優勝
3000M 谷内田 ひかり 6位
7種競技 狩野 早耶 優勝
熊笹御堂 早紀 8位
▽高体連(全国大会)
男子3000M障害 齋藤 晃太 出場
女子1500M 加藤 風紗 出場
3000M 谷内田 ひかり 出場
狩野 早耶 出場

【男子バスケットボール部】

▽高体連(全道大会) 準優勝
▽高体連(全国大会) 出場
▽その他
7/8月にイラン・テヘランで開催された「FIBA ASIA U-18男子バスケットボール選手権大会」に、三森啓右が出場(日本は準優勝)



【サッカー部】

▽高体連(全道大会) ベスト8
1回戦 シード
2回戦 札幌日大 3-2 旭川永嶺
準々決勝 札幌日大 0-2 札幌第一

これまで本校は、生徒の皆さんに魅力ある教育の場を提供するためにさまざまな改革、改善、新企画などに取り組み教育環境の充実発展につとめてきました。
お陰様で卒業生が築かれてきた校風、伝統が大きく伸展してきており、特に進学実績の向上、クラブ活動の活躍、国際交流などまさに文武両道を標榜している学校として大きく前進していることを実感しています。

この春には第二十七回の卒業式が行われこの三十年間で九千名を超える卒業生を輩出しました。第一期生は四十五歳にもなり、卒業生の多くが社会の各分野において中堅として、リーダーとして活躍されていることは、後輩にとって大きな励みであり、同時に学校の誇りでもあります。
在校中はもとより、卒業後にも頂いているご厚情に心から感謝申し上げます。

本年十一月には札幌日大高校三十周年の記念式典、祝賀会が催されます。どうぞ卒業生の皆さんお誘いの上久しぶりの母校を訪ねていただきたいと思います。卒業生のご健勝とご多幸、そして益々のご活躍を祈念申し上げご挨拶とします。

札幌日本大学中学校・高等学校 校長 浅利 剛之 30年の節目を迎えました



札幌日本大学高等学校の同窓生の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本校の教育に対して様々な場面でご協力いただいておりますことこの場をお借りして御礼申し上げます。

さて、既にHP等でご存じの方もいると思いますが、今年度は開校30周年の年にあたり、11月20日(日)には記念式典と祝賀会が実施されます。3年前に前身の北海道日本大学高等学校から数えた学園創立50周年が盛大に実施されました。今回は生徒・保護者・同窓生を中心としたアットホームなイベントにしようと考えております。特に祝賀会は、同窓生を中心とした会になるよう現在進めております。今まで同窓生が一堂に集まる場を設定できずに、卒業後少し寂しい思いをしていた同窓生の皆さんにはこの機会にぜひ参加して旧交を温め、そして本校の現在の様子を知っていただきたいと思います。

現在の札幌日本大学高等学校の近況及び将来の展望について少しお話しします。近年目指す人材育成像を『世界に貢献する人』、教育方針を『本物の正しい教育』と打ち出し、その具現化に向けて教育活動の一つ一つ実施しております。目覚ましい進学実績の向上、スーパーサイエンスハイスクールやスーパーグローバルハイスクールの指定、各部活動の活躍、学校行事の充実、国際交流、明るくて活力のある校風の確立など様々な面で大きく成長しております。加えて、女子寮の建設や海外帰国生入試、中国人編入生の受け入れ、新コース制の導入など新たな取り組みも進んでおります。生徒数は現在高校で1100名を超え、付属中学校と合わせると1400名近くに達しており、北海道の私学でひときわ存在感を示しております。今後は、既存の公立学校でもなく、また公立学校の滑り止めに甘んじるのではなく、私学の特色を十分生かした新しい選択肢として選ばれる学校を目指していくつもりです。新しい教育で北海道の教育を率先してリードできる学校を目指し、同窓生の皆様が誇りに思える学校づくりに努めてまいります。

冒頭に申した通り、30周年記念式典、祝賀会が11月20日に実施されますが、これを機会に今後は、同窓生の皆様にはこれまで以上に結束して母校へのご協力をいただいただけると幸いです。そして、祝賀会は同窓生に懐かしんで楽しんでいただけるように企画しておりますので、可能な限り出席していただくようお願い申し上げます。ご挨拶に代えさせていただきます。

小原 慎也



札幌日本大学高等学校開校30周年おめでとうございます。

本年11月20日に札幌プリンスホテルにて「札幌日大高校30周年記念祝賀会」が行われますが、それを機に今後の同窓会同士の親睦をはかり、母校の発展に寄与する事を目的に定期的に「大同窓会」を開催したいと思っております。私は1期生なので今年で45歳になりますが年を追うごとに一年一年が早く感じられるようになってきました。突然ですがみなさんに質問です。
①15歳〜20歳までの5年間
②20歳〜25歳までの5年間
①と②、どちらが早く感じられましたか？

おそらくほとんどの方が②だと答えると思います。①の場合の5年間は20歳の人生の25%を占めています。②の場合25歳の人生の20%になります。5年間で自分の人生を占める割合が年を追うごとに加速度的に減っていきます。僕は今年45歳になるので11%にしかならないです。

そのうち、そのうちと思っていながらあつと言う間にお爺さん、お婆さんになって死んでしまいます。人生は長いと言いますが僕が僕が人生は短いと思っています。後悔してクヨクヨ生きるよりも楽しく有意義な人生を過ごすために、1年に1回くらいは同窓生、同期生と会い、みんなが頑張っている姿をほげみにして勇気と元気をもらえる場があつてもいいんじゃないかと思えます。

本来は大同窓会よりも 同期会や、クラス会、各クラブのOB会などが活躍に活動すべきだと思います。しかし、同期会をやりたいと思ってもなかなかみんなを集めるのは苦労しますが、大同窓会、桜丘会を利用して欲しいですし、利用すべきだと思います。僕も1期性の80名規模の同期会を10年近く前に開催した時は当時の卒業アルバムに住所録の電話番号にやみくもに電話をかけたり、同窓会の組織にお願いをしました。個人情報保護法から

みがあつたので、それなりに苦労しました。しかし、その後同期生連との交流の場が格段に増えて良かったと思っています。

もし同期会をぜひ開催したい学年があれば相談にのりますし、全面的にバックアップしたいと思います。

また、母校の発展に寄与するという事ですが、大同窓会が中心となって「卒業生が在校生を応援する仕組み」を作りたいと思います。今後定期的(年1

回?)に開催する大同窓会で冊子を作成し、そこに卒業生が働いている又は経営している企業の広告を協賛していただき、その一部を各クラブ活動費にまわしたいと思えます。今回の高校野球南北北海道大会は惜しくも決勝で敗れてしまいましたが、甲子園出場した場合結構なお金もかかります。一部寄付金などもあります。大同窓会として力になれればと思えます。野球だけではありません、バスケットボール部、

サッカー部、吹奏楽部等も全道トップクラスの実績です。

また、大同窓会の当日の参加費ですが、5千円を捻出するのが重くのしかかる年代もあると思いますので、これからのいろいろな話合いの場も必要ですが、卒業して間もない年代は少ない金額で設定できればと思えます。

まずは、11月20日に開催されます「札幌日本大学高等学校開校30周年祝賀会」に是非参加しましょう。

【札幌日本大学高等学校男女別卒業生数】

回期	卒業年度	男	女	合計	累計者数
1	平成元	348	111	459	459
2	2	254	88	342	801
3	3	258	84	342	1,143
4	4	231	132	363	1,506
5	5	228	124	352	1,858
6	6	261	138	399	2,257
7	7	218	149	367	2,624
8	8	222	228	450	3,074
9	9	195	116	311	3,385
10	10	207	147	354	3,739
11	11	157	104	261	4,000
12	12	236	161	397	4,397
13	13	192	128	320	4,717
14	14	212	123	335	5,052
15	15	204	141	345	5,397
16	16	166	116	282	5,679
17	17	195	127	322	6,001
18	18	205	127	332	6,333
19	19	172	111	283	6,616
20	20	154	102	256	6,872
21	21	182	124	306	7,178
22	22	156	126	282	7,460
23	23	144	88	232	7,692
24	24	213	174	387	8,079
25	25	171	132	303	8,382
26	26	205	145	350	8,732
27	27	210	142	352	9,084
合 計		5,596	3,488	9,084	

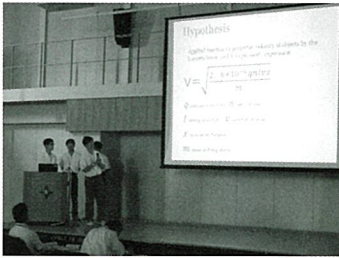
— 新たな取り組み —

本校では現在、文部科学省によるスーパーサイエンスハイスクール、スーパーグローバルハイスクールの指定校として、さまざまな取り組みを行っています。これまでの活動や成果について紹介いたします。

「スーパーサイエンスハイスクール(S・S・H)」は、文部科学省が、高等学校等において、先進的な理数教育を実施するとともに、高大接続の在り方について大学との共同研究や、国際性を育むための取組、創造性、独創性を高める指導方法、教材の開発等に取組む事業です。

本校は平成24年度にS・S・H校としての指定を受けた後、大学・研究機関等との連携の下、地域の教育資源を活用して生徒たちの知的好奇心を喚起し、創造性・独創性及び科学的リテラシーを高く教育を推進するとともに、科学技術イノベーションを支え世界レベルで活躍する人材育成プログラム開発に取り組んでいます。今年度はS・S・H指定の最終年度である5年目に当たります。この間、道内・道外の研究施設に赴いて、最先端の科学講義を受講したり、希望者だけではなく、海外へ足を

▼生徒研究発表会(英語口頭発表)



となる昨年度は、道内の高文連研究発表において13件の発表のうち9件が賞を受賞しました。また道内での活動だけでなく、道外への学会発表にも多くの生徒たちが参加するまでに至りました。

その中でもノーベル物理学賞を受賞した益川博士が主催する「第8回益川塾シンポジウム」において全国最高賞である益川塾頭賞を受賞する生徒や、国際科学オリンピック・物理チャレンジにおいて入賞する生徒が現れるなど、生徒の活躍が年を増すごとに多くなってきました。

今後最終年度の取り組みが終了した後、II期申請を行い、S・S・H事業が継続していけるように努力をしていく予定です。運動部だけの活躍にとどまらず、文科系の活動においても札幌日大高校の名が広く世間に知れ渡るように、教員・生徒ともに協力して日々活

動しております。

「スーパーグローバルハイスクール(S・G・H)」は、文部科学省が、高等学校等において、グローバル・リーダー育成に資する教育を通して、生徒の社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を図ることを目的とした事業です。

平成26年度に準指定となるアソシエイトの認定を受けた後、平成27年度に正式な指定を受けました。平成27年度は「北海道の産業課題を世界視点で捉え、解決に導くグローバル人材育成」を研究課題として、国際化を推進する大学・官公庁・民間企業と連携し、国際教養を身につけながら、産業・環境社会における『未来の北海道の姿』をテーマとして、「課題の設定」・「調査」・「仮説・分析」・「まとめ・表現・発信」の研究を行ってきました。

週2時間の授業では、国内、国外のフィールドワークに向け、外部講師をお招きし、講演をいただくなど、基礎的な教養を学びました。夏休みには、秋田国際教養大学でのフィールドワークを実施し、留学生へのインタビュー

に取り組み、英語でプレゼン発表しました。また、春休みのシンガポール研修では、現地の企業、大学を訪問し、意見交流をしました。

活動を通して、忌憚なく意見を言える意欲、国際的な視点で物事を考える広い視野、大人数の前でも果敢に発表しようとする積極性など、これまでの学習では得られなかった力が見えるようになってきました。この事業を経験した生徒たちが、今年度の「トビタテ留学JAPAN」日本代表に4名選出されるなど、飛躍的な成長を見せています。

入学生から中高一貫コース、特進コースの生徒がS・S・Hと選択する形でこのプログラムに参加しています。更なる生徒の活躍に期待しています。



日本首相官邸表敬訪問 (2016. 7. 12)